



昭憲皇太后肖像
グイード・モリナーリ作
(東京都庭園美術館蔵)



ボンボニエール
箱型陸軍連帯海軍旭日旗文
(学習院大学史料館蔵)

目次

①展示紹介

特別展 「華麗なる明治—宮廷文化のエッセンス—」

②トピックス

令和3年度の歴史館

特別展「華麗なる明治 ― 宮廷文化のエッセンス ―」

令和4年2月19日（土）～4月10日（日）

【展示概要】

幕末の動乱を乗り越え、国力旺盛な欧米列強と対峙した明治時代は、政治、経済、法制、文化、産業など、実に多様で、大きな変化をとげた時代でした。宮中の奥で秘すべき存在であった天皇や皇后も、国民や諸外国の視線を意識した《見られる》存在となり、近代的な装いのもとで新しい役割を担っていきます。きらびやかなドレスや大礼服、宮殿を彩った豪華な美術・調度品、各国王族や外交官をもてなした晩餐会や舞踏会など、伝統文化を基礎としながらも、欧米の文物を積極的に採り入れ、清新、かつ華麗ともいべき宮廷文化が花開くことになりました。本展では、明治時代の皇室の活動を中心に、宮廷を彩った華やかな文化、皇室に近侍した本県ゆかりの人びと、本県各地への行幸啓について、皇室や本県ゆかりの貴重な史料を通じて紹介します。

【各章概要】

I 明治天皇と昭憲皇太后

戊辰戦争を経て、欧米列強と対峙した明治政府は、対等外交などをめざして近代化の道を歩みはじめる。憲法制定、国会開設、対外戦争、条約改正など、怒濤のように流れる時代のなかで、天皇と皇后は時代のリーダーとしての役割を担う。肖像画、愛用品や遺品などから、天皇・皇后の人間像を見つめてゆく。



御軍服 明治天皇着用
（大洗町幕末と明治の博物館）



昭憲皇太后肖像
（東京都庭園美術館）



朝顔丸艦首像
（神戸大学海事博物館）



剃刀 明治天皇遺品
（個人）



観音立像および厨子 海野勝
珉・安藤勝明（清水三年坂美
術館）



大森彦七図鐔 海野勝珉
（個人）



花房義質子爵古稀祝賀詞画冊
二世五姓田芳柳（坂東郷土館ミュージズ）

II 明治美術の煌めき（※資料写真は前ページ下段）

西洋文化を採り入れた明治宮廷において、美術家たちも新たな需要をつかんでゆく。「掌上の雅」とも称されたボンボニエールなど日本独自のエッセンスを加えた工芸品に加え、装剣金工から帝室技芸員となった海野勝珉、宮廷画家とも称され、皇室ゆかりの西洋画を描いた二世五姓田芳柳など、本県ゆかりの美術家を中心に、明治美術の粋を見てゆく。

III 宮廷服の競演

西洋の宮廷文化を積極的に取り込む明治日本。なかでも、明治宮殿や鹿鳴館は国内外の注目を集める、いわばショー・ケースであった。西洋の宮廷服をモデルにした宮内官大礼服、昭憲皇太后の豪奢な大礼服、華族夫人や宮中女官のドレスなど、明治期の貴重な洋装資料を中心に、明治人たちの近代的なチャレンジを見てゆく。



大礼服 昭憲皇太后着用
(共立女子大学博物館)



大礼服 前田侯爵家伝来
(公益財団法人成翼閣)



皇族大礼服 有栖川宮熾仁
親王着用(東京国立博物館)



香川敬三肖像画 五姓田義松
(学習院大学文学部史学科)



香川志保子肖像写真
(当館)



ヴィジティングドレス
香川志保子着用(当館)



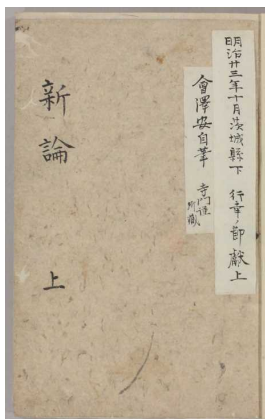
通常礼服
樹下定江着用(個人)

IV 皇室を支えて 一香川敬三と志保子一

急速な変化を受容する皇室を、本県ゆかりの人びとが支えつづけた。皇后側近の第一人者・香川敬三、《皇后のスタイリスト》ともいうべき敬三の娘志保子。ともに海外経験をもち、変革の意義を理解した2人が、西洋文化の風を皇室に運び、その定着に努めた。侍従長をつとめた山口正定なども含め、本県ゆかりの宮廷人たちの事蹟を紹介する。

V 行幸（みゆき）のあと

新しい時代が到来したことを各地方の民衆に示すため、また民衆の生活を実際に理解するため、明治初期には明治天皇の地方巡幸が行われた。また明治中期以降、本県は、近衛師団等の軍事演習統監にともない4度の行幸（啓）を仰いでいる。地域に眠る貴重な資料から、本県各地で初めて天皇・皇后を奉迎した行幸啓の軌跡を追う。



新論 会沢正志斎自筆草稿
明治天皇・昭憲皇太后へ献上
（宮内庁書陵部図書寮文庫）



天卓 明治33年笠間行幸関係資料
（個人）



明治天皇行幸 田中嘉三
（笠間市教育委員会）



口付紙巻煙草 明治天皇御料
（たばこと塩の博物館）



饗餐七宝卣 神谷伝兵衛
寄贈品（東京国立博物館）



太刀 則包
（水戸東照宮、当館寄託）



門標
（結城市教育
委員会）

VI 天覧に供された物産・文化財

天皇・皇后の行幸啓に際して、数多くの文化財が天覧に供された。また水府煙草や結城紬など、全国的に有名な物産も天覧・お買上げとなり、産業功労者が表彰されている。行幸啓は、地方文化財の保護、産業奨励の契機ともなったのである。民衆の熱狂のなかで示された、日本の美と産業の保護者としての皇室の性格に迫る。

トピックス

令和3年度の歴史館

【こどもの歴史くらぶ】検地ってどうやって田の？ 7月18日（土）

小学3年生以上を対象に、検地の模擬体験講座を実施しました。初めに検地や年貢、測量道具等についての説明をし、次に、庭園の一部を田んぼに見立てて、梵天、細見竹、十字、間縄等の道具を使いながら、土地の測り方を検地の手法で体験していただきました。

また、検地体験の後は、企画展「絵図・地図・アーカイブ図―描かれた茨城の都市と村―」の展示内容を解説を交えながら紹介しました。暑さの厳しい日でしたが、家族での参加者が多く、親子で楽しむ姿がたくさん見られ、参加者からは、「検地を実際に体験できて楽しかった」、「機械を使わずに人の体を使った測り方で絵図を描いていたことに驚いた」などの感想が寄せられました。



【大人の歴史倶楽部】水戸黒染め&藍染め体験 10月30日（土）

主に高校生以上を対象とし、幅広くバラエティに富んだ日本文化や歴史の体験等に挑戦する参加型プログラムとして、令和3年度より新しく開設した講座です。第1回目は、江戸時代の水戸藩で行われていた染色技法「水戸黒」を中心に、染めものの体験講座を実施しました。



講師には、「水戸黒」を復活させ、伝統を継承する大谷屋染工場（安政3年創業）の5代目大川哲氏をお招きし、水戸黒染め実演の見学や藍染め体験を行いました。

参加者からは、「水戸黒のことを初めて知って、勉強になった」、「存続させたい技術だと感じた」、「素晴らしい体験ができてよかった」などの感想が多数寄せられ、満足度の高い講座となりました。

【歴史館いちょうまつり】いちょう並木ライトアップ他 11月6日（土）から21日（日）

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年よりも規模を縮小し、夜間のイベントを中心にしたほか、正門ほか各門の入口で検温・消毒等を行いながら実施しました。また、混雑を避けられるよう、人気のイベントを2週に分け、6日（土）・7日（日）には「スカイランタン」を、13日（土）・14日（日）には、「プロジェクションマッピング」を行いました。庭園では、近隣小学校の協力を得て作成したキャンドルの展示のほか、軽トラガーデンと称して茨城県造園技能士会の皆様より出展いただき、美しい夜の庭園となりました。

また、6日、7日、13日、14日の夜には、「ナイトミュージアム」と称して夜間（17～20時）にも開館しました。特に13日（土）の夜間には、1,773名の来館者があり、普段あまり利用のない子育て世代や若年層の方々の姿も多く見られ、当館の展示を様々な世代の方々に観ていただく機会となりました。

日中は、広い庭園にステージを設け、県高等学校文化連盟や県生活文化課と協働の音楽イベントを実施しました。お天気にも恵まれ、いちょう並木の黄葉は、6日（土）から14日（日）のライトア

アップした夜間だけでなく、日中にも大勢の方が来場し、秋の歴史館を十分に楽しんでいただけた様子でした。黄葉したいちよう並木の様子は、NHK 水戸放送局やフジテレビでも放映され、各新聞社やラジオ等でも多く取り上げていただきました。



【体験プログラム】チャレンジ！昔のあそび 11月21日（土）

歴史館ボランティアが遊び方をアドバイスし、江戸時代のコーナーでは、扇を的に当てて得点を競う「投扇興」、文字や絵に隠された言葉を当てるなぞなぞあそびの「判じ絵」、現在でも楽しんでいる「双六」を体験していただきました。また、昭和のレトロなあそびのコーナーでは、こまやめんこ、けん玉、お手玉、輪投げ等を準備し、体いっぱい使って楽しんでいただきました。

参加者からは、「投扇興の扇の投げ方が意外に難しいことがわかった」、「判じ絵を解いて、江戸時代の人ユーモアが面白かった」等の感想が聞かれました。幅広い世代の方々に楽しんでいただき、笑顔がたくさん見られたイベントとなりました。



茨城県立歴史館 教育普及課 電話 029-225-4425

各行事などについてのお問い合わせは、電話、またはホームページの「お問い合わせ」からメールをお送りください。